

研究テーマ	<p>[Ⅲ 造形感覚を発揮して、自分らしい表現を生み出すこと]</p> <p>児童の緊張をほぐし、これまでに身につけた技能を生かす題材の工夫          ー小学 4 年生 「一本の木からはじまるメルヘン」の実践を通してー</p>
-------	---

境町立境小学校 教諭 丸山 友子

## 1. 研究テーマについて

子どもたちは、真似をすることが好きである。学ぶという言葉は「まねぶ」から派生したことからもわかるように、真似をすることは学びの第一歩である。しかし、図画工作科において、誰かの作品を真似するよりも、自分オリジナルの作品を満足のいく出来栄えで作ることができたらどんなにいいだろう。

多くの児童は図画工作科の授業を通して「きれいな作品を作りたい」とか「上手に作りたい」という思いや願いを持っている。ともするとその思いが強すぎるために、友達作品をそっくり真似してしまったりなかなか絵が描けなかったりすることがある。大きな画用紙を前に「何を描いていいかわからない」と言って悩み、楽しく自由であるはずの図画工作の時間が、児童によっては、苦痛に満ちた時間になっている場合がある。

そこで、児童の誰もがそれぞれの造形感覚を発揮し、「これならできる」と一人ひとりが安心して自分らしい表現を生み出すことのできる題材について工夫することにした。ここでの「造形感覚」や「自分らしい表現」という用語は以下のように捉えている。

### 造形感覚とは

用具をどのように使うとどのような表現になるのか、また、材料をどのように使う方法がありどんな感じの表現になるかなど、その人が今までに培ってきたり新しく学んだりした、用具や材料を使う感覚のこと。

### 自分らしい表現とは

想像したことを、考えた通りに作品に実現すること。

### ☆ 研究の目的

- ・ 児童の誰もが見通しを持ち、自分なりのイメージを持ちながら、安心して製作に取り組むことのできる題材や指導過程について考える。
- ・ 児童が今までに経験してきた用具や材料の使い方や表現方法を生かすことのできる題材や指導過程について考える。

### ☆ 研究の仮説

- ・ 児童が作品作りの見通しを持つことができれば、児童は安心して楽しく製作に取り組むことができるであろう。
- ・ 児童が今まで経験してきた用具や材料の使い方や、表現方法を思い出すことができれば、新たな作品作りの際に自分らしい表現方法として取り入れることができるであろう。

## 2. 実践例

(1) 題材名 一本の木からはじまるメルヘン

(2) 目標

- ・ 身近な画材のいろいろな技法を進んで試し、自分の作品を製作することを楽しむことが

できる。 (関心・意欲・態度)

- ・ いろいろな技法を試しながら、自分の表したいイメージに合うものを見つけることができる。 (発想や構想の能力)
- ・ 表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして表すことができる。

(創造的な技能)

- ・ 参考作品や自分たちの作品を見てよさや面白さ、表し方による感じの違いについて気づくことができる。 (鑑賞の能力)

### (3) 題材について

この題材は世界のどこかにある一本の木の周りでまき起こるストーリーを思い浮かべ、自分だけのお話を作り、楽しみながら絵に表すものである。木は、たくさん枝分かれし、芽が出たり花が咲いたり実がなったり、生命の源の象徴としてみるができる。勢いよく伸びる枝もあれば生き物の住処として空けられた穴、普段は見られない土中の曲がりくねった根など、単純でありながらも造形的に面白い素材である。この題材ではその木を中心に、その木がどこにあるのか、周りにはどんな生き物や物があるか、どんな景色が見えるかなどを自由にイメージし、自分だけのお話を作り、思いついたことを絵に表していく。

子どもたちは物語やゲームの世界などであたかも自分が主人公になり、さまざまな冒険や空想をすることが多い。多くの場合は超現実的、非現実的な世界が展開され、絵に表すのにふさわしい世界が登場する。不思議で怪しい世界や、この上もなく美しい世界など、子どもたちは一本の木の背景にもそんな不思議な感じや空想したことを表したいと考えるだろう。

そこで、作品作りと平行して、今までに児童が経験してきた技法について試す時間を特別に設けたい。クレヨンを使ったいろいろな技法や水彩絵の具を使ってできる技法、それらの組み合わせ方について試していく中で、児童は自分らしい表現を見つけることができると考える。児童が作品作りにおいて見通しを持ち、自分のイメージをゆっくり育てながら、多くの技法の中から自分らしい表現方法を選択できるようにしていきたい。

## ☆ ねらいに迫るための手立て

### ① 誰にも苦なくとりかかるとのことのできる素材を用意する。

絵を描くことの苦手な児童にとって、画用紙の画面は広いものである。そこに、誰もが取りかかりやすくわかりやすい一本の木を描くことを基本に据えることによって、誰もがひとまず簡単に達成感を味わうことができるようにする。

### ② 製作の手順を示すことで見通しを持たせる。

何をどのようにやるとどんな作品ができそうかということを、児童一人ひとりが具体的にイメージすることができ、作品の出来上がった様子を思い浮かべることができれば、児童は安心して製作に取り掛かることができる。黒板に、製作の手順について順を追って示すようにし、今何をやっていて次は何をするかについて見通しが持てるようにする。

### ③ 用具や材料の使い方を経験させる。

児童にとっては何度も使い慣れ親しんできた、クレヨンや水彩絵の具についてのいろいろな使い方について、試す時間を設ける。児童の経験には差があるので、改めていろいろな使い方を経験させる。そのことにより、児童が使うことのできる技法を増やしたり、気に入った技法を選択できるようにしたりする。

(4) 指導計画 (8 時間扱い)

時間	学習活動	評価の観点			
		関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
3	一本の木の周りではじまるストーリーについて思い浮かべ、制作の見通しを持つ。	参考作品を見て、自分ならどんな作品を制作するか考えようとする。			参考作品の制作の過程を見て、よさや面白さを感じ取ることができる。
	クレヨンを使い、思い思いの夢の木を描きながらイメージを膨らませる。		木の形を工夫して描きながら、自分の物語を見つけることができる。	好きな色を選び、木の形を工夫して表すことができる。	
1	クレヨンや水彩絵の具を使ったいろいろな技法を試す。	クレヨンや水彩絵の具を使ったいろいろな技法を進んで試そうとする。	いろいろな技法を試しながら、自分の表したいイメージに合うものを見つけることができる。		
1	一本の木の背景に夢の世界を作り出す。			表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして表すことができる。	
3	思いついた物語を自由に表現する。		表したいことを考えながら、思いついたことを表すことができる。	表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして表すことができる。	
	作品を鑑賞し合い、互いのよさに気づく。	自分たちの作品について感じたことや思ったことを話そうとする。			いろいろな表し方による感じの違いについて気づくことができる。
<p>題材を通して〔共通事項〕の視点として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な画材のいろいろな技法による形や色、組み合わせなどの感じを捉えることができる。</li> <li>捉えた感じを、自分のイメージに生かすことができる。</li> </ul>					

(5) 指導の実際

① 導入

「あるところに、一本の木がありました。その木はどんな木かな… 青々とした葉がついているのでしょうか？ それとも花が咲いている？ 実がなっているかもしれないね。ここはどこでしょう。周りにはどんなものが見えるでしょう？」

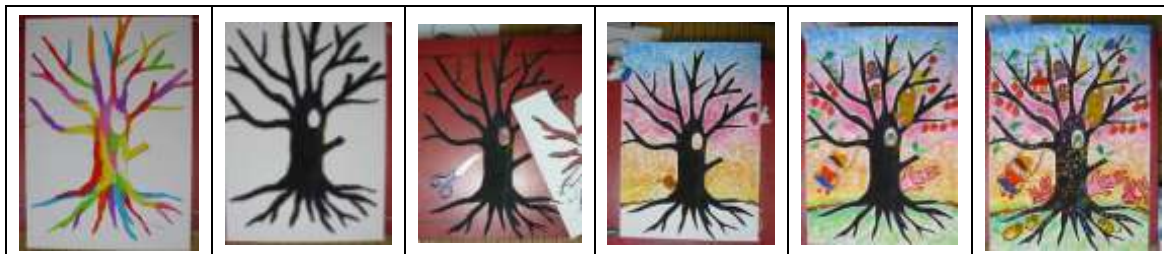
と語りかけながら、児童に思いついたことを話してもらおう。

「その木の周りには、その木が大好きな仲間たちが集まってきているかもしれないね。にぎやかなかんじ？ それとも静かな感じかな？ 先生はこんな感じを思い浮かべました。」

そして参考作品（指導者が前もって試作しておいた作品）を見せる。

## ② 黒板に製作の手順を示す

製作の過程がわかるように、前もって参考作品試作の途中途中で写真を撮っておいたもの



製作の順番に沿って、どんな風に描いたりつくったりしたかを話しながら少しずつ黒板に掲示していく。この資料は常時黒板に掲示し、児童が製作の見通しを持つことができるようにする。

## ③ イメージを確かにするためのワークシート

すぐにイメージのわく児童ばかりではないので、クレヨンで木を描いている間に自分の表したいイメージを膨らませることができるようにする。ワークシートにも手がかりとなるヒントを示し、自分のイメージを簡単に記入できるようにする。

## ④ 実際に試したクレヨンや水彩絵の具を使った技法

- ・ スクラッチ（基本の技法）

明るい色のクレヨンの上に暗い色のクレヨンを重ねて描き、とがった楊枝やわりばしで引っかくと下の明るいクレヨンの色が出てくる。まずはほぼ全員が、木を描く際、この技法を楽しんだ。

- ・ クレヨンによるぼかしと型紙との組み合わせ

画用紙に好きな色のクレヨンで強めに描き、指やちり紙でこする。型紙を組み合わせると好みの形が淡い色合いで浮かび上がる。

- ・ 水彩絵の具によるぼかしとクレヨンとの組み合わせ

たっぷり水を含ませた画用紙の上に水彩絵の具でかき、にじんで偶然にできる模様を楽しんだり色同士を淡くぼかしながらつなげたりする。また、クレヨンに含まれるろう分が水彩絵の具の水分をはじく性質を利用する。白いクレヨンで好きな形を書いておくと、後から絵の具で染めた際、その形が浮かび上がる。



- ・ たたき染め

たんぽに水彩絵の具を含ませて、画面上でたたく。

- ・ 泡の表現

プリンカップに洗剤を加えた色水を入れ、ストローで泡立たせながらできた泡を画用紙の上に落とす。

- ・ 吹き流し

画用紙の上に水彩絵の具で作った色水を落とし、ストローで吹き飛ばして偶然にできた模様を楽しむ。



- ・ 水彩絵の具を金網でこする（スパッタリング）  
歯ブラシに色水をつけ、金網でこすって水彩絵の具を霧吹き状に飛ばす。



### ⑤ 技法を生かす児童の姿

<p>この児童は明るくふかふかしたイメージを表現したかったので、たたき染めを選択した。明るく暖かな春の様子を表現することができた。</p>	<p>この児童は怪しい妖怪の世界を表現したかったので、白いクレヨンの筆跡を水彩絵の具で浮かび上がらせた。水彩絵の具の色合いと組み合わせ、怪しくも美しい雰囲気を醸し出すことができた。</p>	<p>この児童は夢のような美しい世界を表現したかったので、スパッタリングを使い、木の上にも虹の霧を吹きつけた。</p>
<p>この児童は時間をかけて製作をしていたがなかなか自分のイメージが決まらなかった。そのうちに泡の表現を木の葉に見立てることを思いついた。</p>	<p>この児童はスパッタリングをしている途中で、金網の網目模様を画用紙にこすり出すことを思いついた。霧の模様よりも網目模様のほうが自分の表現に合っていると気づき、意欲的に表現していた。</p>	<p>この児童はイメージに合った背景を描いた後、以前行った貼り絵の表現を思い出した。描くよりも貼り付けるほうが自分の表現に合っていると気づき、最後まで丁寧に表現していた。</p>

### 3. 成果と課題

まず学習の初めに、作品作りの手順や、全貌を明らかにしておいたことで、児童は意欲を持ち、ほとんど休むことなく作品作りに取り掛かることができた。見通しを持つことができたために、今すべきことがわかり、安心して楽しく製作に取り組むことができた。普段なかなかイメージの浮かばない児童も、手を動かしながら作品作りに没頭している間に思いつき、自分なりのアイデアを生かすことができた。今まで経験してきた用具・材料の使い方や、表現方法を思い出したことも、自分らしい表現方法として作品の中に取り入れるきっかけになった。わが校の4クラスの4年生誰もが、大きく狙いから外れることなく、自分の力で自らのアイデアを生かしながら作品を仕上げることができたことが最大の成果だと思う。こ

の経験を生かし、さまざまな児童のニーズに応え、誰もが見通しを持って安心して表現することができる題材を探したり作ったりしていきたい。

しかし、手順や参考作品を「制約である」という面から考えてみると、児童の表現を硬くしてしまう原因になるようにも思った。題材ごとのねらいに応じて、見通しの持たせ方を題材ごとに工夫していく必要があると感じた。